

2021（令和3）年度 委員会報告

助産師職能委員会

委員長 佐藤 君江

1 委員会開催 8回

2 活動内容

(1) 研修会の開催

ア 助産師職能集会

2020（令和2）年度活動報告

栃木県看護協会ホームページに掲載

研修会：看護師職能との合同研修

・テーマ「幸福度を高めるための職場環境改善 - ポジティブサイコロジー」

講師 国際医療福祉大学大学院 中田 光紀氏

内容 幸福度を高めるためポジティブな側面に焦点を当て、心をどのように利用すればより健康的に働き続けることができるのか、ポジティブサイコロジーの立場から考えていく方法を学んだ。幸福にはレシピがあり、人と交わることや関わる大切である。幸せは自分でつくるといった内容であった。

日時 令和3年6月19日（土）

会場 コンセーレ

イ 新人助産師研修：前期

・テーマ「母乳育児支援」

講師 自治医科大学附属病院 助産師 塚田 祐子氏

内容 母乳育児支援の講義および演習と自己紹介

実践ですぐに活用できるスキルの習得ができ、半年後の成長を新人同士で認め合う機会となった。

日時 令和3年9月24日（金）

会場 栃木県看護協会研修センター

参加人数 20名

ウ 新人助産師研修：後期

・テーマ「助産師のためのハンドケア」

講師 新小山市民病院 助産師 松田 直美氏

内容 アロマの基礎知識とハンドケアの講義および演習、1年間の振り返り

自分自身も癒される機会となり、ハンドケアの技術を習得することができた。

日時 令和4年1月14日（金）

会場 栃木県看護協会研修センター

参加人数 15名

エ 産科従事者交流集会

・テーマ「アドバンス助産師の現状と課題」

座長 助産師職能委員長 獨協医科大学病院 副看護部長 佐藤 君江氏
シンポジスト

自治医科大学附属病院 看護師長 塚田 祐子氏
済生会宇都宮病院 看護課長 大沼 のり子氏
国際医療福祉大学病院 看護副師長 氏家 由美子氏
獨協医科大学病院 助産師 舟橋 好恵氏
自治医科大学附属病院 助産師 長谷川 美鈴氏
さくら産院 助産師 近内 みゆき氏

内容 アドバンス助産師の現状と課題について情報交換を行った。施設による違いを知ることで、自施設でも活用できる方法などを考える機会となった。

日時 令和4年1月24日(月)

会場 栃木県看護協会研修センター

参加人数 9名

(2) その他

ア ヒューマンフェスタとちぎ2021

目的 県民一人ひとりの人権尊重に対する理解を深める。

日時 令和3年11月13日(土)

会場 とちぎ福祉プラザ多目的ホール

※11月3日「いいお産の日」に重ねてイベントに参加し、助産師の活動を広く県民に紹介しているが、新型コロナウイルス感染症対策のため、職能委員会としては不参加となった。

イ 助産師だより ミッドワイフトーク

目的 ホームページ化することにより、施設関係者にタイムリーな情報を提供する。

行動目標 令和4年4月にホームページ版「ミッドワイフトーク」第12号を掲載する。

活動内容

9月～11月 原稿依頼先の検討、原稿依頼および原稿確認

12月～1月 原稿のレイアウト検討、原稿の修正

3月 最終確認および発行(ホームページ上)

ウ こうのとりネットワーク

目的 妊娠期から子育て期までの切れ目のない看護・助産機能の強化に関する意見集約、課題発見のための情報収集を行う。県民に向けた情報発信の場とする。

行動目標 県内の産婦人科施設の情報を集約してホームページに掲載し、県民に情報発信する。

活動内容

6月 掲載項目の検討

7月 掲載施設への発信

10月～1月 掲載施設の確認・掲載準備

3 まとめ(次年度の課題)

(1) 県内の新人助産師の数は少なく、施設内では、新人同士での交流や情報交換が困難であるため、新人助産師研修を前期・後期の2回実施することは、交流の場として効果的であつ

た。助産師に限らず産科勤務の看護師、NICU看護師にも対象を広げたことは、周産期看護の向上に寄与できると考える。新型コロナウイルス感染症予防のため、グループワークは行わなかったが、次年度はコロナ禍においても行える交流方法を検討していきたい。

- (2) 産科従事者交流集会は、アドバンス助産師の初めての更新時期をうけて、現状と課題について情報交換を行った。施設による違いを知ることで、自施設でも活用できる方法などを考える機会となった。この研修は、CLoCMIP 看護管理者・ウィメンズヘルスケア研修の単位が獲得できるため、今後も情報共有とスキルアップを目的とし継続していく。
- (3) ホームページを活用した「このとりネットワーク」と助産師だより「ミッドワイフトーク」は、県内の産科施設の情報共有、助産師への情報発信の場となっており、今後も継続していく。
- (4) 助産師が生き生きと働き続けられるよう委員会活動を継続していく。